GIFU UNIVERSITY

2019.3 Vol. 16

岐阜大学キャリア支援部門 NEWS

https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/introduction/news.html

巻頭言

若手のキャリア形成は大きく変わっていく

吉田　　敏
教育推進・学生支援機構キャリア支援部門　特任教授

私は平成30年４月より，前任の坂口先生の後を受け特任教授として，主にイノベ・プログラムの中で博士課程院生のキャリア支援業務を行っています。２年前定年退職するまでは，工学部で主に学部生・修士の学生・社会人博士課程院生の研究教育指導という名の「キャリア支援」を行ってきましたが，学生院生の就職を含めた「キャリア支援」というものを特に意識していたわけではありませんでした。自分たちの時代と比べてはるかに就職環境は良くなっているので，何とかなるだろう，ぐらいのぼんやりした意識しかなかったように思います。ところが，このキャリア支援のお手伝いを始めて，色々調べてみると，若手研究人材という括りで修士も含む大学院生を考えると，そのキャリア形成には相変わらず重大な問題を孕んでいることが意識されてきました。日本では修士から博士課程への進学率が次第に減少してきているとか，大学院生の日本人学生の割合は減少してきているとか，博士号取得者の数は欧米中国では増えているのに日本では2001年以降増えていない，などの問題が認識されています。所謂ポストドクター（PD等）問題がその一つで，大なり小なり大学院生のキャリア形成の問題はそこに繋がっているように思います。

ここ数年，イノベ・プログラムにはPD等の参加はありませんでしたが，この大学からPD等がいなくなったわけではありません。文科省学術政策研究所の調査で（H30. 1. 30公開），全国的にはPD等の数は，2008年ごろをピークに漸減してきていますが全体として16,000人ぐらいで下げ止まっているようです。本来，PD等という分類には，アカデミアで任期付きで採用されている人も含まれますので，若干減ってきたとはいってもPD等問題自体の根本的解決にはなっていません。PD等問題はかれこれ半世紀近く前からある問題ですが，産業構造が近年変わってきたといっても，昔と比べて桁違いにPDの数が増えているのは，なぜか？端的に言えば２つのことが考えられます。つまり，１．博士課程学生DCで，アカデミアに残りたいとする割合がほぼ８割以上，という意識，２．企業の方としては，DC・PDを取る必要はないと思っているところもほぼ８割以上，という意識。この２つの意識が数十年にわたってスパイラルのように重層的に働いて，PD等問題が解決されずにいますので，この両者の意識を改革しない限り問題の解決はないと思います（さらに加えて，３．アカデミアのポジションを増やすな，という国の政策の問題，もあります）。実はこの問題は，DCのキャリア形成の問題というだけではなく，若手研究者の基礎研究力の低下，近年の国家として（大学・研究機関・企業研究所等）の研究基礎力・開発力の相対的低下（Nature誌論評，http://www.natureasia.com/ja-jp/info/press-releases/detail/8622）に繋がっている問題だと思います。

キャリアパスはますます多様化してきていますので，今後，産業・社会構造が大きく様変わりし企業等の採用活動も変化していくとすれば，DCは長期に渡って良いチャンスを捉えるために，多様な環境で，自分を宣伝して多様な企業等と交流し自らを知ってもらう作業が，益々必要になるでしょう。インターンシップ活動もその一つですが，DCにとって重要なのは長期（１～３カ月以上）のインターンシップで，DCの学生が新しい環境に身を置いて，自身の適応力や柔軟性を磨くことが重要になります。これは，学部生や修士対象の短期（１日～１週間程度）のインターンシップ（就業体験，職場体験）とは意味が異なります。今後，DC・PDの人は，長期インターンシップを含め，起業家を目指す人のため研修会など多彩なイベントに積極的に参加し，企業や研究機関等との交流を深め，多様なキャリアパスに対応できるよう活動されることを期待しています。

先輩社会人寄稿

「飛山千里之志 濃水百年不息」

原　　尚
昭和54年３月 教育学部卒業

岐阜大学の体育館入り口付近に石像（写真）があるのをご存知だろうか？これは，岐阜大学体育学科創立50周年を記念して平成11年に建立されたものである。「人」という文字をデザイン化したと聞いているが，「体育とは，運動によって人間の発達を助成する社会の営みである！」と提唱した故：橋本正一氏（岐阜大学名誉教授）の思いを表している。

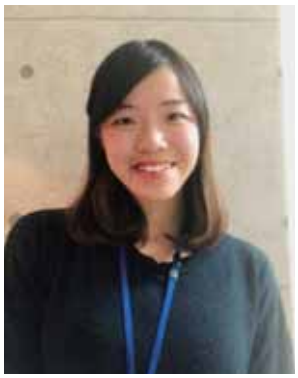
私が30代前半の頃だった。50歳ほど年の離れた先生は優しく微笑みながら私に言った。「教育実践に関する理論が実践の強力な司令として機能するためには，その最終的な根拠をその教師の人生観，世界観に求めなければならない。教師としての本来の生き方，人生哲学をもたずに子どもたちを真に育てることはできない。」…体育授業の研究に少しばかりの興味を抱き始めたものの，授業実践（子どもたち）から遠のいたところで物事を考えていた私への一言だった。

この石像の右下には『飛山千里之志　濃水百年不息』という文字が刻まれている。先生の直筆文字を刻んだものである。『千里之志』は，クラーク博士の「少年よ，大志を抱け」から，『百年不息』は中国の故事「愚公移山」(どんな困難なことでも粘り強く努力し続ければ，やがて成就する。）から思いついたと先生から聞いた。岐阜県を代表する「飛山」(飛騨）と「濃水」(美濃）に託して，「雄大な志をもって百年の努力によって未来を切り拓け！」という意味である。

先生が他界されてから十数年が経った今，私は母校である岐阜大学に勤務している。健康のために始めた昼休みのウォーキングでは，必ずこの石像の前に立ち一礼し，思いを新たにしている。「大いなる志をもっているか？」「弛まぬ努力をしているか？」を自問自答している。学生の皆さん，一度この石像の前に立ち，先生の囁きを聞いてみませんか？

社会人一年目の今

小林　知世
平成30年３月 大学院工学研究科修了



私は現在スポーツメーカーでスポーツウェアの開発をしています。小さい頃から本格的にスポーツに取り組んでいたため，何かしらの形でスポーツに関わる仕事がしたいと思い就職活動に臨み，縁あって，今の会社から内定をいただきました。

社会人一年目も終わろうとしている現在，正直思うことは，「社会人難しい！」です。学生の頃に比べて，やることは多いのに時間は限られ効率化が求められる。情報が次から次へと入ってくるため把握が困難。知らないことが多い状態で仕事を任され戸惑う。…という具合に日々パニック状態です。これまではスーパーポジティブ(就活でもアピールしていた)な私でしたが，最近は自分の無能さをひしひしと感じ，自信を失いつつあります。しかし，時々，自信を持てるときがあるのも事実です。それは，私しか知らない知識があったり，私しか思いつかない意見，アイデアが閃くときです。

私は大学時代，遺伝子等を扱う研究室に所属していました。私の会社には，このような生物を専攻していた社員は，ほとんどいません。今は，ウェアを扱う部署ですので，その知識を使うことはないだろうと思っていたのですが，稀にこの知識を応用できる場面に遭遇します。そういう場面では，他の人が思いつかない意見を言うことができます。また，私は就活で様々な業界の採用試験を受けたため，専門外の視点からも意見を持つことができています。企業が様々な分野出身の人を採用するのは，このように多方面からの考え方を必要としているからなのだろうと思うとともに，これまで培ってきた経験等が役立ち，私にしかできないことで会社に貢献できることがあると思うと，自信を持てたりします。

このような経験を通して，私から今回伝えたいことは，研究，部活，サークル，バイト，好きなこと，趣味，どんなことでもいいので，何かに真剣に取り組んで欲しいということです。もちろん，就活もです（就活は，自分のこと，社会のことを知れる大きなチャンスです)。どんなことでも，真剣に取り組んだ経験は，きっとどこかで自分の長所として役立ち，未来の自分を助けてくれると思います。私も，いつか多くの方に面白いと思ってもらえるような開発ができるよう，今は目の前にある仕事に，真摯に向き合っていきたいと思います。

くじけそうになることもあると思いますが，社会人初心者，就活生共に頑張っていきましょう！

社会人基礎力育成グランプリへの参加

細田　絢子（学生ボラネット）
教育学部１年

平成30年４月，学生ボラネットは「平成30年度社会人基礎力育成グランプリ（主催：一般社団法人 社会人基礎力協議会　共催：経産省)」に向けて活動を開始しました。社会人基礎力とは，経済産業省が提唱する３つの能力である「前に踏み出す力」，「考え抜く力」，「チームで働く力」のことです。

まず，活動内容を決めるためにメンバー全員が意見を持ち寄り，何度も議論を重ねました。"こんなことができたらいいのに"という理想がある一方で，限られた時間や予算を考慮しなければならないため，とても悩みました。

そして本年度は，両親が働いている子どもたちの放課後の有効活用を目指すため，気軽に参加しやすいイベントを開催することにしました。そして私たちは小学４年生から６年生までを対象として発明家になってみないか？プログミングをしよう！と題する「プログラミング講座」をぎふメディアコスモス(岐阜市司町)で９月と10月に合わせて３回開催しました。内容がプログラミングになったのは，2020年から小学校でプログラミング教育が必修になることがきっかけです。このイベントを開催するにあたっても，色々な課題に直面しました。場所や機材の確保，参加者の募集，ゼロから始めることの難しさを実感しました。そこで私たちは仕事を分担することにしました。学生ボラネットはチームであるため，みんなで成功させたいという想いから，それぞれの仕事に責任を持って取り組みました。そして，イベントのチラシを作成して岐阜市内の小学校へ送ったことにより多くの参加者を集めることができ，また富士通株式会社様のご協力も得ながらこのイベントを成功させることができました。

イベントを終えた私たちの今の課題は，地域が一体となって子育て支援をする環境を作ることです。社会のためにできることを考え，人と協力し，一歩前に踏み出せる人材を目指し続けます。

学生支援プロジェクト
応生ツイッターで青色に染めよう

PARK JUNWOO（パク ジュンウ）
応用生物科学部３年

学部３年生からの「応用生命科学課程は何の研究をしているのだろう」という質問から出発した本プロジェクトは、ツイッターを利用し本課程の詳細を本学の学生ら及び受験生や社会に向けて発信することを目的として発足した団体です。

平成30年８月に行われたオープンキャンパスでは本学受験を考えている受験生へ，本学の学生にツイッターを通して質問できるQRコードを印刷したカードを配布しました。また，課程内の各研究室を取材し，ツイッター上でラボの様子を定期的投稿や，本学学生へのツイッターアカウントの紹介を行っています。さらに，ツイッター上では他高校等をフォローし本学の情報が広く発信できるように日々努力しています。

「一つのツイッターの書ける140文字で，私達が発信したい情報をどのように書けばいいのか」「私達の情報が炎上の原因にはならないのか」等ツイッターという道具を利用することで発生する問題点は多くありますが，それに注意しつつ，万が一の問題発生時の対策も考えて行きたいと思っています。

身近な生き物についての情報発信『のらぎーく』の活動について

西村　友希
平成31年３月応用生物科学部卒業

私たちは『身近な生き物に愛着を』をコンセプトにYouTubeで活動するグループです。昨年の春ごろから準備をしていたのですが，なかなか環境が整わず，秋にようやく活動を始めることができました。

私たちの身のまわりには，多くの生き物が暮らしており，私たちは子供のころからその環境に触れて育ってきました。そして，自分たちがそうであったように，自分たちの子供や孫の世代にも同じように身近な自然や生き物と触れ合ってほしいという想いがあります。しかし，そういった環境も少しずつ変化し，私たちにとって身近であった生き物が10年後，20年後に同じように身近な存在のままであるとは限りません。そのため私たちは，彼らが暮らす環境を残すためにはどうしたらよいだろうかと考えてきました。その中で，身近な自然に興味を持ち，親しみを抱いている人は，自分たちが想像しているよりもずっと少ないことに気が付き，もっと多くの人が身近な生き物に愛着を感じるようになる活動をすることが，彼らを守る第一歩になるのではないだろうかと考えました。

現在は，月に１～２本ほど，大学周辺で見られる生き物の映像をYouTube上にアップしています。基本的な構成は，生き物の形態的な特徴や生態を，映像を用いて解説する形となっており，ジャンルは昆虫から鳥，魚など多岐にわたります。ありがたいことに，思っていたよりも多くの方に見ていただいているのですが，やはりまだまだ認知度が低いのが現状です。今後はより多くの人に見ていただけるよう，様々な工夫を凝らしながら活動を続けていきたいと思っています。また映像以外にも，マスコットキャラクターの"のらのこくん"のLINEスタンプ発売など精力的に活動中です。

私たちの活動に興味を持ってくださった方は，ぜひ，YouTubeで『のらぎーく』と検索してみてください。麦わら帽子が目印です。それでは，動画にてお会いしましょう！

就職活動報告

就職活動は社会人の第一歩！

永田　麻純（総合電機メーカー内定）
平成31年３月　大学院自然科学技術研究科修了

就職活動の中で大事なことは，自分の考えをしっかり持って，それを相手に伝えることだと思います。

まず，自分の考えをしっかり持っておくためには，できるだけ多くの企業に実際に行き，その企業を知ることが大切だと思います。ですので，興味を持った企業のインターンシップの機会があれば，参加して欲しいです。それらの機会は，企業ＨＰに書いてないこと（職場の雰囲気やモノづくりに対するこだわり等）を知ることができるので，是非行って頂きたいです。私の場合，就職活動前はメーカー志望ではありましたが，この製品を作りたい！といったこだわりが無かったため，修士１年生の１年間，異なる業界の企業を見学しました。その結果，様々な業界のものづくりに貢献している企業に行きたいと考え，ＦＡ（工場の自動化）に取り組む企業に決めました。

受けたい企業を決めたら，次は自分の考えをその企業に伝えること（エントリーシート（ＥＳ）と面接対策）が重要です。

ＥＳは，両親や友達，研究室の先輩や同級生，キャリアセンターの方，社員の方に添削をお願いしました。人事の方は，沢山のＥＳを読まれているため，伝わりやすい文章が要求されます。自分では伝わると思って書いた文章でも，他の人に伝わっていないことがあります。周囲の方から積極的に意見をもらい，自分のＥＳを推敲して欲しいと思います。

そして，ＥＳより対策に力を入れたのが面接です。私は人前に出ると緊張するタイプで，それを克服するため，人一倍面接練習を行いました。面接対策講座に参加したり，研究室の先生や同級生，内定先の岐阜大ＯＢ・ＯＧにお願いして練習をして頂きました。また，練習や面接本番の振り返りはその日のうちに行い，質問に対して自分がより自信を持って答えられる回答になるよう考え直しました。その結果，５月の面接ラッシュ時には緊張して言葉が出ないということは無くなりました。

内定先の社員の方が「社会人にとって，自分の意思や意見がしっかり伝えることが大事なことの一つ」だとおっしゃっていました。就職活動は社会人の第一歩なのではないでしょうか。

就職活動を通して

井戸　崇人（自動車部品メーカー内定）
平成31年３月　地域科学部卒業

私の就職活動は志望業界も業界知識も全く無しの状態から始まりました。しかし就職活動を終えたいま，「ここで働きたい」と思える企業に出会うことができ，内定をいただくことができました。私的な意見となってしまうかもしれませんが，就職活動を通して私が感じたことが少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

就職活動で大切なことは「知っているか」「熱意が伝わるか」この２点だと思います。

まず「知っているか」についてです。社会にはどんな業界・企業があるのか，自分はその中でどこの業界・企業に惹かれるのか，企業を選ぶ際に重要視するポイントはどこなのか等，きりがありませんが，これらを自分の中ではっきりとさせておくことがとても大切です。実際に選考が始まったとき，これらの軸が定まっていれば自然と自信・やる気が湧いてくると思います。それを知るために何回も説明会に行き，先輩の社会人の方・岐阜県内企業の方々に相談し，自問自答をひたすら繰り返していました。合同説明会では全ての業界の話を聞いていました。そこで話を聞いてみて「この業界に興味はない」と自分を知ることも多々ありました。使える人脈は全部使ってください。無いという人は広げる努力をしてください。自分の足を使って手に入れた情報がなによりも大切です。

「熱意が伝わるか」これに関しては一番初歩的なことかもしれませんが，一番大切なことだと感じました。根拠のある熱意ほど強いものはないと思います。自分の中にそれをしっかりと持った上で選考に挑んでください。思いは必ず伝わります。

「業界を絞るのはぎりぎりでも大丈夫」「自己分析，ほんとに大事」など，どの先輩も言っていることが同じように聞こえて，私は本当にそうなのかと疑心暗鬼な状態でゆっくりと就職活動をスタートしました。しかし，まさにその通りでした。早いうちから先輩の言うことをもっと真剣に受け止めておけばよかったと後悔することがとても多かったです。どれだけ信じて早めに行動できるかどうかです。早いに越したことはありません。がんばってください！

キャリア支援部門ニュース編集委員

委員長・横田　康成
（キャリア支援部門長・(工) 教授）
委員・吉田　敏
（キャリア支援部門副部門長・特任教授）
委員・白村　直也
（キャリア支援部門・特任助教）
委員・正村　隆弘
（学生支援課課長補佐・就職支援室長）
委員・五味　進司
（キャリア支援部門事務担当）

●岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門●
〒501-1193 岐阜市柳戸1－1
キャリア形成支援 TEL 058-293-3393 career@gifu-u.ac.jp
就職支援 TEL 058-293-2147・3362 job@gifu-u.ac.jp
イノベーション創出若手人材養成 TEL 058-293-3492 career@gifu-u.ac.jp